

## 評価結果要約表

<b>1. 案件の概要</b>	
国 名：ラオス人民民主共和国	案件名：セタティラート大学病院医学教育研究機能強化プロジェクト
分 野：保健医療	援助形態：技術協力プロジェクト
主管部署：人間開発部 保健第三課	協力金額：約2億9,500万円（プロジェクト期間終了時見込み）
協力期間 (R/D)：2007年12月～ 2010年12月	先方関係機関：保健省、セタティラート病院
	日本側協力機関：東京大学医学教育国際協力センター、システム科学コンサルタンツ株式会社
	他の関連協力：無償資金協力「新セタティラート病院建設計画」（1998年～2000年）、技術協力プロジェクト「セタティラート病院改善プロジェクト」（1999年～2004年）
<b>1-1 協力の背景と概要</b>	
<p>ラオス人民民主共和国（以下、「ラオス」と記す）政府は、2020年までの保健医療戦略である「保健戦略2020」において、保健医療サービスを公平に全国民に対して提供することを掲げており、各レベルにおける医療従事者の人材育成を最も重要な政策のひとつとして位置づけている。</p> <p>セタティラート病院は病床数186床の総合病院で、ラオスにおける中核的医療機関であるとともに、医学生の臨床教育、医師の卒後教育を担う機関である。わが国は、無償資金協力「新セタティラート病院建設計画（1998～2000年度）」により新病院建設に協力し、2000年11月に新病院が完工した。併せて1999年10月から5年間、技術協力プロジェクト「セタティラート病院改善プロジェクト」を実施し、同病院の医療サービス及び研修機能の向上を支援した。</p> <p>他方、地方においては、医師の能力不足や数の不足がみられ、地方の実情に対応できる質の高い医師の養成が求められている。国立ラオス大学医学部は、卒業生に対する2年間のファミリーメディスンスペシャリストプログラム（インターンシップ制度）を立ち上げ、地方において広く患者のニーズに対応できる家庭医の育成に着手し始めている。こうした動きと並行して、2004年9月、セタティラート病院はビエンチャン市立病院から国立ラオス大学医学部の大学病院に格上げされ、名実ともに教育病院として位置づけられることになった。上記ファミリーメディスンスペシャリストプログラムの下、研修医を受け入れ指導する病院のひとつにも位置づけられているが、現状では同病院の教育機能はまだ不十分な状況にある。</p> <p>このような背景の下、ラオス政府は、セタティラート病院における臨床研修機能改善のための技術協力「セタティラート大学病院医学教育研究機能強化プロジェクト」をわが国に要請し、2007年12月から3年間の期間で同プロジェクトを実施中である。</p> <p>2010年12月の本プロジェクトの終了に先立ち、プロジェクトの活動の実績、成果を評価、確認するとともに、今後の類似事業の実施にあたっての教訓を導くことを目的として、本終了時評価調査団を派遣した。</p>	
<b>1-2 協力内容</b>	
(1) 上位目標	
ラオス国において医師に対する臨床研修の質が改善される。	

(2) プロジェクト目標

セタティラート病院において医学部学生の臨床実習及び医学部卒業後2年以内の医師の卒後早期臨床研修の質が改善される。

(3) 成果

- 1) セタティラート病院の教育病院としての臨床研修に関する知見が拡充される。
- 2) セタティラート病院において研修管理体制が改善される。
- 3) 臨床研修指導担当医の能力が強化される。

(4) 投入（プロジェクト期間終了時見込み）

1) 日本側

日本人専門家派遣	69.93MM
ローカルコスト	約1,881万1,000円
機材供与	約3,500万円
臨床研修センター（CLC）建設費	約1,000万円

2) ラオス側

- カウンターパート（C/P）配置
- プロジェクトの事務所を含む土地及び施設の提供
- 運営費用の歳出予算計上
- 研修及びセミナーの準備

2. 評価調査団の概要

団長・総括	牛尾 光宏	JICA 人間開発部 技術審議役
協力企画	水野 愛美	JICA 人間開発部 保健第三課 職員
評価分析	井上 洋一	(株)日本開発サービス 調査部 主任研究員

調査期間：2010年6月22日～2010年7月8日

評価種類：終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 成果1

成果1の指標はおおむね達成されている。

【成果1】

セタティラート病院の教育病院としての臨床研修に関する知見が拡充される。

指 標	達成度
1. 月別図書貸出数の増加（目標値：1人当たり年間4冊）	● 学生1人当たりの貸出数は、利用者数の増加に伴って増加し、目標値である1人当たり4冊は、2010年2月時点で達成されている。
2. 策定した教材の臨床教育における使用状況	● 「症例プレゼンテーション・ガイドブック」は、ケースカンファレンスの際の手引として、あるいは診療録記載においても利用可能なフォーマットの参考として、学生のポケットに入れられていることが多い。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● その他の教材に関しては、今後医学生や研修医へ配布予定であり、第4年次に各教育病院、県病院で実施する指導医研修（TOT）のアドバンストコースで利用法を説明し、カリキュラムに漸次組み入れていく予定である。</li> </ul>
3. 研修センター及びシミュレーター使用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2009年8月から2010年2月までの7カ月間で、研修センターの利用は84回である。図書館の利用率と同様、臨床研修再開後は著しく利用が増加しており、2010年2月は1カ月で38回利用されている。</li> </ul>
4. 診療録における記載の空欄率の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 無作為抽出した診療録50冊中、白色修正液の使用が求められた割合は2008年の18%から2009年では2%に減少している。</li> <li>● 医学生が記載した診療録に指導医の署名があったものは、2008年の12%から2009年では52%に上昇している。</li> <li>● 入院時所見については、プロジェクト開始時はほぼ記載がない状態であったが、現在はフォーマットの改訂などを実施し、2009年には60%程度の空欄率となっている。</li> </ul>

臨床研修の知見の拡充のために研修センターの建設やその運用方法の確立、情報へのアクセス改善のための医学関連書籍の購入や図書館運営の改善、適切な診療情報の作成のための診療録の改善を実施している。その結果、分からないことは自分で図書やインターネットで情報にアクセスすることが定着しつつあり、学生の知識の増加や問題解決能力の強化に一定の成果がみられている。

## (2) 成果2

一部を除いて指標は達成されており、おおむねセタティラート病院での研修管理体制は確立されたと評価することができる。

【成果2】	
セタティラート病院において研修管理体制が改善される。	
指標	達成度
1. TMCが開催される回数（目標値：60回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セタティラート病院では2008年6月に第1回研修管理委員会（TMC）が開催され、2010年5月31日現在で61回開催している。今後も隔週での継続開催が予定されており、ルーチン化しているといえる。</li> </ul>
2. 医学教育ユニット（MTU）のスケジュール管理の更新頻度の増加（目標値：週1回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 科によって更新状況にばらつきがまだあり、内科は毎週更新しているものの、外科、小児科は2週に1度、産婦人科は月に1度のことがあった。TMCで更なる定着化を呼びかけている。</li> </ul>
3. 医学生、研修医は、指導担当医による指導が改善したと感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再委託調査結果によると、4教育病院のローテーションにおいて、指導医の変化を感じている。</li> <li>● TOT前後での学生による指導医評価を統計的に検証した結果、TOT後の評価ポイントの上昇に有意差が確認され、学生の評価に対してTOTが若干の上昇影響を及ぼしていることが立証された。</li> </ul>

4. 内部モニタリングの質の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保健科学大学（UHS）による実習病院のモニタリング制度と位置づけ、制度化を進めていたが、モニタリングを実施する組織体制が確立しておらず、十分な機能を発揮するに至っていない。</li> </ul>
5. 保健人材技術作業部会（HRH-TWG）においてセタティラート病院の臨床教育が他病院のモデルであると出席者が認識する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保健大臣を筆頭とする保健省、UHS、各教育病院の間では、セタティラート病院でのMTU活動を通じた臨床教育の有効性が認識され、医師人材育成のキーワードとして認識されている。</li> <li>● 「保健セクター第7次5カ年計画（2011～2015年）」策定のためのセクター・ワーキング・グループ（SWG）会議で、MTU活動が同計画の“Sector Common Work plan and Monitoring Framework”における「教育研修を通じた保健人材の能力向上」の指標として記載されるに至っている。</li> </ul>

医学教育ユニット（MTU）は当初概念のみが導入されていたが、具体的な運用方法についての理解が乏しく、機能していなかった。そのような状況で本プロジェクトはラオスの現状に則した形での導入を支援し、その活動で発現するさまざまな問題や進捗管理を行う研修管理委員会（TMC）の組織化を実現しており、効果的なMTUの運営の基礎が確立されたといえる。

MTUのスケジュール管理については適切な運用の定着が遅れているが、現在、TMCで改善計画が議論されている段階である。また内部モニタリングにおいても実施体制の未確立や優先性の問題により、今後の課題として残されている。

### (3) 成果3

成果3の指標はほぼ達成され、セタティラート病院をはじめ、他の教育病院、新たに臨床研修を受け入れることとなった地域病院での指導医に対して、臨床研修運営や指導法に対する能力強化が図られている。

【成果3】	
臨床研修指導担当医の能力が強化される。	
指 標	達成度
1. 医学教育セミナーの実施回数（目標値：8回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2年次3回、3年次3回実施、4年次3回を実施予定で、目標達成する見込みである。</li> </ul>
2. 指導教材を用いたTOTの実施回数（目標値：15回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3年次のTOTでは将来の自立発展性に鑑み、ラオ語のプログラムとラオ語で教えられる人材の育成に着手し、UHSと4教育病院の代表者10名から成るラオス医学教育推進プロジェクト（PMEL）が2009年7月に発足した。発足後のTOTはPMELのメンバーが主体的に実施している。</li> </ul>
3. 臨床研修指導担当医に対するモニタリング回数（目標値：8回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● TOT研修前後に実施するプレテスト、ポストテストのほか、日本人専門家とPMELメンバーが毎年巡回してモニタリングを実施している。3年次に4回、4年次は4回のTOTを予定しており、合計8回の目標値はプロジェクト期間終了までに達成予定である。</li> </ul>

4. 指導担当医はTOTにより指導技法を改善できたと感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3-3のモニタリングにおけるフォーカスグループディスカッションにて改善したと感じている指導担当医は多い。</li> <li>● 終了時評価時における聞き取り調査でも、これまで指導法を学習する機会がなかったためTOTは有益で、学生の指導管理方法が向上したとの意見が多く聞かれている。</li> </ul>
5. ニュースレター、ポスターの発行回数(目標値：それぞれ7回、1回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3年次にポスターを製作、TOT研修実施先病院、保健省、UHS等に配布した。</li> <li>● ニュースレターは2009年6月現在で5号を製作している。4年次にあと2回製作予定であり、プロジェクト終了までに目標を達成する見込みである。</li> </ul>

医学教育セミナーは回を重ねるにあたり日本人専門家を中心とした講師によるセミナー方式から、自立発展性を重視したラオス側によるシンポジウム方式に発展している。

指導医研修(TOT)に関しても、急激に増加した医学生に対応するために計画された地域病院での実習受入れに先んじて、プロジェクトはTOTの実施やMTU導入支援などの受入体制準備を行い、医学生に対する臨床研修の質の維持に大きく貢献している。

#### (4) プロジェクト目標

プロジェクト目標の指標はおおむね達成されている。

#### 【プロジェクト目標】

セタティラート病院において医学部学生の臨床実習及び医学部卒業後2年以内の医師の卒業後早期臨床研修の質が改善される。

指 標	達成度
1. セタティラート病院で臨床研修を受けた医学生/研修医の満足度が向上する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生の満足度調査の調査結果からは、調査時期や学生数増などによるさまざまな要因による影響が示唆され、定量的に満足度を正確に評価することは困難であると考えられた。</li> <li>● しかしながら、プロジェクトチームによる聞き取り調査などでは、セタティラート病院をはじめとした教育病院での評価は良好で、終了時評価時のインタビューや直接観察も、その評価結果を支持するものであった。</li> </ul>
2. 専門機関によるセタティラート病院での臨床研修の評価が高くなる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セタティラート病院で実践されているTMCによる管理の下、実践されているMTUは保健大臣や保健省、UHSから高い評価を受け、保健戦略計画や大学の活動計画に反映される見込みが高い。</li> <li>● MTUは、保健省やUHS、地域/県病院の間で、臨床研修における合い言葉として認知されるに至っている。他のドナー機関からの評価も高い。</li> <li>● TOTに関しても、要請に基づいて他の教育病院での実施が開始されており、教員としての経験の少ない医師への教授法向上に大きく貢献している。</li> </ul>

医学生や研修医による研修満足度調査での定量的な評価は困難であったが、インタビューや直接観察での満足度はおおむね良好であった。また、学習環境が向上し(成果1)、TMC管理の下、適切なMTU運営が実現され(成果2)、TOTの実施を通して指導方法に一定の向上が認められたため(成果3)、総合的に判断してラオスの臨床研修の基礎は確立されたも

のと考えられ、おおむねプロジェクト目標は達成されたと判断できる。

しかしながら、セタティラート大学での運用は定着したものと考えられるが、他の教育病院や地域病院での運用は開始されたばかりであり、制度として定着されるには更なる改善や継続したトレーニングが必要であると考えられる。

### 3-2 5項目評価結果

- (1) 妥当性：以下に示す理由から、プロジェクトの妥当性は、終了時評価時点でも高く維持されている。

上述の「保健戦略2020」に加え、ラオスでは現在、次期活動計画となる「保健セクター第7次5カ年計画2011～2015年」がセクター・ワーキング・グループ（SWG）のなかで協議され、保健省と開発パートナーが協同で策定しているところである。保健人材育成についてはSWG会議の保健人材技術作業部会（HRH-TWG）で検討されているが、本プロジェクトで実質的な運用の確立を支援したMTUを保健人材の能力強化の重要な要素と位置づけている。以上のことより、MTUやTOTを核とした卒前・卒後の臨床研修の質の向上をめざした本プロジェクトの目標は、現時点でもラオスの保健政策、特に人材育成に関する方向性との整合性は極めて高い。

また、今後更に増加する学生への臨床研修の質を担保するうえでも、本プロジェクトで実施した臨床研修実施における組織体制強化、環境整備、教育人材の能力向上は必要性が高く、指導医や学生のニーズのみならず、ラオスの保健人材育成計画上の必要性とも合致するものである。

わが国の対ラオス援助方針のなかでも、臨床研修の質の改善を通じた将来的な医師の能力向上をめざす本プロジェクトは、「保健医療分野の人材育成、制度構築」のなかの「保健人材育成強化プログラム」のなかに位置づけられる。

- (2) 有効性：以下の理由から、プロジェクトの有効性は、おおむね高いと考えられる。

3つの成果は臨床研修運営上、相互に影響を及ぼす形で、プロジェクト目標である臨床研修運営の質の向上のための必要十分条件となっている。したがって、成果とプロジェクト目標の関係に理論的な破綻はなく、おおむね成果も達成され、プロジェクト目標の指標も満たされることから、プロジェクト目標は達成される可能性が高い。特に、本プロジェクトで確立したMTUに関しては、妥当性で述べたようにラオスの保健人材、特に医師の育成の手法として政策的にも重要視されるに至っており、このことから、本プロジェクトは有効性の高い活動が実施されたものと判断できる。

他方、本プロジェクトではセタティラート病院で臨床研修の質の向上として組織的な基盤を確立しているが地固めの段階とはいえず、また、今後急増することが見込まれている研修を受ける学生数に対応するためにも更なるブラッシュアップが求められる。

- (3) 効率性：いくつかの外部条件によりプロジェクトの進捗が阻害されたが、おおむね効率性の高い活動が実施された。

CLCの利用は病院関係者にとどまらず、保健科学大学（UHS）など他の機関の利用も増加傾向にある。学習教材、書籍類についても他の教育病院やUHSなどによる利用も進んでおり、十分活用されていることが調査団の直接観察によっても確認されている。特にプロジェクトで供与したタイ語の医学参考書は有効に活用されており、研修中に不明な点を図書館で調べることが定着しつつある。また、医学参考書は学生のみならず、医師や他の医療スタッフの利用も進んでいることが確認され、効率性の高い投入が実現したと評価できる。

また、カルガリー大学を中心とした他の支援機関とプロジェクトは効果的な連携を実施したことにより、成果達成に向けた効率的な活動の推進が実現されている。特に教材作成

についてはカルガリー大学のこれまでの教育実績に基づいて作成された既存教材を基に共同で作成しており、現場の臨床教育に則した内容となっている。また、他の教材も既存の資料を利用して作成されている。

東南アジアスポーツ大会（SEA Game）開催による臨床研修への影響や、研修センター火災による影響が観察されたが、いずれも最終的なプロジェクト目標達成に大きく影響を及ぼすものではなかった。

- (4) インパクト：プロジェクトの実施によって、以下に示す正負のインパクトが確認または期待されている。

ラオスでは同国医療状況の改善に保健人材の能力強化を重要視しており、そのための臨床研修の質の向上をめざすセタティラート病院における活動は、将来的に十分な質が担保された医師育成の足がかりと位置づけられる。また、本プロジェクトでは活動のなかに将来的な便益の普及をめざし、C/Pの自主性を重視した活動を行っている。特に、ラオス医学教育推進プロジェクト（PMEL）はUHSと4つの教育病院の代表者から構成され、TOTの実施など活発な活動が実現されている。TOTを通じてセタティラート病院での研修管理方法などは、他の教育病院や新たに実習を担当することとなった地域病院や県病院でも共有され、既にTMCの組織化などのインパクトが確認されている。すなわち、セタティラート病院で確立した臨床研修の基礎はラオスの自主性を重視した形でプロジェクト期間内に進展し、上位目標達成の筋道がつけられたと考えられる。

他方、少なくとも今後数年間は研修を受ける医学生の数の上昇が見込まれ、現在の外部条件が満たされないことは自明である。状況によってはラオスの臨床研修が破綻し、キラー・アサンブションとなる可能性も孕んでおり、医学部入学者数のニーズに基づいた制限が実現するとともに、今後、増加する臨床研修参加者への対応が強く求められる。

- (5) 自立発展性：小規模であっても何らかの継続的な支援が得られれば、プロジェクトによって生み出された便益の自立発展、自己展開はある程度期待できる。

ラオス政府は本プロジェクトで実施した臨床研修の質の改善を高く評価しており、MTUなどは人材育成に関する戦略計画に組み込まれる見込みであることから、政策的、制度的観点からは高い自立発展性が期待できる。

技術的側面からもセタティラート病院では自主的に一定の質を担保した形での臨床研修が可能な状態であるが、研修として基礎的段階である。他の教育病院や県レベルの研修病院では導入の初期段階であり、小規模であっても継続した技術支援の必要性が示唆されている。

また、ラオス全体での臨床研修の質を実現するためには、学習環境の整備や継続性のある指導者研修を実践する必要がある。また、今後増加する医学生の臨床研修を適切に実施するには、何らかの財政支援の必要性が示唆される。

### 3-3 効果発現に貢献した要因

- 成果1に関して、研修病院としての知見の拡充を実現するために臨床症例の体系的な蓄積を主な活動としていたが、プロジェクト活動開始後の現状調査にて医師や医学生の情報へのアクセスや学習環境の改善の優先性が確認され、中間レビュー時に活動アプローチの修正が実施された。その結果として図書館の運営改善や教材や資料の充実が図られ、また、CLCの建築、運用の開始によってハード面を中心とした臨床研修の基盤が実現されている。
- TOTを県病院で実施するには、英語-ラオ語の通訳を介した指導では効率が悪いため、ラオ語の教材を作成し、ラオ語で教えられる人材の育成が必要となった。これに対応すべく、TOT研修のテーマを確立し、C/P自身が指導できるよう、実施部隊となるPMELがプロジェ

クトの働きかけによって教育4病院とUHSの代表者から組織された。PMELは現在TOTを牽引しており、TOT研修に大いに貢献している。また、PMELは組織横断的に形成されており、また、自立的に活動を運営できるレベルになっていることから、持続発展性にも貢献しているといえる。

- ・ プロジェクト日本人専門家とC/Pの関係は非常に良好であり、C/Pは知識と技能の獲得に意欲が高く、ラオスの医療水準を向上するための方策として卒前・卒後教育の重要性を十分に認識しており、強いコミットメントをもってプロジェクト活動に従事していることが、プロジェクト効果の発現に大きく寄与している。

### 3-4 問題点及び問題を惹起した要因

特になし

### 3-5 結論

本プロジェクトはいくつかの外部要因により活動が影響を受けたものの、成果はおおむね順調に達成され、3年間という実に短期間でありながらも、セタティラート病院を中心に据えたラオスの臨床実習の質の改善に大きく貢献したことが確認され、妥当性、有効性、効率性の高い活動が展開されたと評価できる。

他の教育病院や県病院における臨床実習には既に正のインパクトも確認されており、本プロジェクトの成果は高く評価されている。また、本プロジェクトの活動は全体を通して自立発展性を強く意識したものとなっており、組織的、技術的には高い自立発展性が期待できるものと結論づけられる。

しかしながら、外部条件として挙げられている急増する医学生数への対応は、ラオスの臨床実習運営に対して大きな影響を及ぼす可能性があり、プロジェクトの残りの期間を含めて、関係者で対応を協議されたい。

他方、臨床研修の質の向上には、本プロジェクトで支援した組織・環境面の向上に加え、基本的な医師の診療技術の向上が不可欠である。今後も研修受入施設の組織・環境面の強化を図りつつ、他の支援機関との良好な協調の下、診療技術の向上に取り組む必要があると考えられる。

### 3-6 提言

<保健省に対して>

- 1) 保健省は、中央の教育病院の経験を県病院へ拡大するため、県病院でのトレーニングを含めた地域基盤型医学教育を展開するという現在の方針を継続し、その予算を確保すること。
- 2) HRH-TWGにおいて医学教育の議論を促進し、それに係るドナーを招聘する努力をすること。
- 3) UHSが実施する指導医研修に対して教育病院及び学生を受け入れる県病院へのレター発行及び便宜供与を要請すること。

<保健科学大学に対して>

- 1) MTU・TMCの普及を担うPMELの指導医研修活動を技術・財政的にサポートすること。
- 2) 各教育病院及び医学生を受け入れる県病院が行っているMTU・TMCについて運営指導及びモニタリングを行うこと。
- 3) プロジェクトで作成した教材の利活用を図ること。



<教育病院に対して>

- 1) TMCを設置し、運営管理を強化すること。
- 2) MTU・TMCに関してUHSとの連絡を密にし、学生教育の管理機能を維持すること。
- 3) 学習環境（学習スペースや教育資機材等情報へのアクセス環境）並びに生活環境に関して必要な実態を把握し、その改善に努めること。

<本プロジェクトに対して>

- 1) MTU及びTMC活動維持のための、PMELに対する能力強化を実施する。
- 2) TOT継続に必要な経費を試算しておくこと。

### 3-7 教 訓

- 1) 本プロジェクトには、当初からプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）にベースライン調査が活動の一部に含まれており、調査結果によって明らかとなったラオスの医学教育の現状や環境に基づいて、プロジェクトの方向づけを行ったことが、成果の達成に大きく貢献したと考えられる。
- 2) 教育の質の改善は、その性質上、数年で改善が見込まれるものではなく、中長期的な協力を要するものである。本プロジェクトでは、3年間という短いプロジェクト期間のなかで、ラオスの実情に沿った実現性の高い制度・基盤整備を行ったことにより、自立発展性に貢献した。よって、限られたプロジェクト期間のなかで自立発展性を担保するには、長期的視野をもちつつも短中期で達成でき、かつ継続可能な基盤を確立することが重要である。
- 3) 「質」の評価は非常に困難である場合が多く、しばしば主観的な評価に頼らざるを得ない。しかしながら、指標の設定はできるだけ客観的に測定可能なものである必要があり、客観的なデータを外部から入手できない場合は、プロジェクト活動のなかで進捗モニタリングに並行して信頼性・妥当性の高いデータを収集できるように、活動内にデータ収集を盛り込むなど、PDMを設計しておく必要がある。
- 4) 本プロジェクトでは、保健省内にある保健省関係部局、開発パートナーにより構成される保健人材の技術作業部会にて、プロジェクトの取り組みを紹介したところ、保健省内で高い関心を呼び、セタティラート病院の経験をモデル化して中央・県レベルの病院に展開することが検討されるに至った。このように、自立発展性を担保するためには、プロジェクトの活動実績や成果が、プロジェクト関係者間のみならず、共通のプラットフォームで共有されることが効果的な場合がある。